

【瑞穂市】平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

(1) 全国学力・学習状況調査について

【目的】 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析したことを、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、児童生徒に21世紀を生き抜くための「確かな学力」を身に付けさせることを目的に国が実施。

【実施日】 平成30年4月17日（火）

【調査対象】 小学校第6学年、中学校第3学年

【調査内容】 ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

・主として「知識」に関する問題（A）

・主として「活用」に関する問題（B）

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査



(2) 瑞穂市全体の傾向

①教科に関する調査より

【小学校】

- ・国語A（主として「知識」に関する問題）、国語B（主として「活用」に関する問題）共に県の平均正答率と同じで、全国の平均正答率をやや上回っている。
- ・算数A、Bと理科は、県の平均正答率と同じで、全国の平均正答率ともほぼ同じ。

国語では、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題」等、「読むこと」についての問題はよくできていた。昨年度の課題であった「漢字の読み書きの問題」に改善が見られたが、今後も課題として取り組んでいく必要がある。

算数では、「1に当たる大きさを求める問題における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題」がよくできていた。しかし「グラフが表している特徴を読み取り判断したり、読み取ったことを記述して説明したりする問題」に弱さが見られた。

理科では、「『人のからだの仕組み』や『水のはたらき』についての科学的な言葉や概念を問う問題」はできていた。しかし「観察、実験の器具について、適切な操作技能に関する問題」や「自然の事物・現象を的確に理解し、それを自分の知識や経験と結びつけて解釈する問題」に弱さが見られた。

【中学校】

- ・国語Aは、県の平均正答率と同じで、全国の平均正答率ともほぼ同じ。Bは、県や全国の平均正答率を上回っている。
- ・数学A、Bと理科は、全国や県の平均正答率を大きく上回っている。

国語では、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題」等、「読むこと」と「書くこと」の問題はよくできていた。昨年度の課題であった「漢字の読み書きの問題」には引き続き弱さが見られたため、語彙力を高めるための指導改善に取り組む必要がある。

数学では、「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する問題」等、「数学的な見方や考え方を問う問題」がよくできていた。

理科では、「自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識と理解を問う問題」や「観察・実験の結果などの根拠に基づいて、多面的、総合的に思考して検討する問題」がよくできていた。

全国学力・学習状況調査が実施されてからの瑞穂市の傾向は、小学校は全国の平均正答率と同程度、中学校は全国の平均正答率を上回っている。また、小学校時の結果と3年後の中学校時の結果を比べると伸びが見られ、小学校で身に付けた学力を基に中学校でその学力を更に伸ばすことができています。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より

【小中学校】

- ・学校のきまりを守っている児童生徒が非常に多い。(小中学校共に全体の9割以上)
- ・「朝食」や「就寝時刻」、「起床時刻」など、学習を支える規則正しい生活習慣が身に付いている児童生徒が多く(小学校で全体の8割以上、中学校で全体の7割以上)、家庭と連携した生活習慣や学習習慣づくりが大切にされている。
- ・地域の行事に参加している児童生徒(小学校は全体の8割以上、中学校は全体の6割以上)は、全国に比べて非常に多い(平均値として、小学校で20ポイント以上、中学校で15ポイント以上高い)。長年かけてつくりあげてきた地域の中で児童生徒たちが活躍し、地域の中で児童生徒たちを育てていこうとする風土は、瑞穂市の財産である。
- ・算数・数学の授業において、自分の考えをノートにまとめたり(小中学校共に全体の9割近く)、理科の観察・実験を通して考察し、仲間と説明し合ったり(小学校は全体の7割以上、中学校は全体の6割以上)する学習活動が行われる等、言語活動の充実が図られている。また、仲間と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童生徒が多い(小中学校共に全体の8割以上)。
- ・自分にはよいところがあると感じている児童生徒(小中学校共に全体の8割以上)や、学校の先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている児童生徒(小学校は全体の9割以上、中学校は全体の9割近く)が多く、教師が児童生徒たちのよさを認め励ましたり、児童生徒たち同士で互いのよさを認め合ったりする活動が大切にされている。
- ・普段の児童生徒の読書量については少し改善が見られたが、中学校においてはまだ全国に比べて少なく、今後も引き続き学校、家庭、地域が連携して読書の推進を図っていく必要がある。



(3) 結果を踏まえて

<瑞穂市の強み>

- 小学校で身に付けた学力を中学校で更に伸ばすことができている。
- 日々の授業において、学習の課題に対する自分の考えを仲間と伝え合ったり、ノートにまとめたりするなどの言語活動を大切に授業づくりがなされている。
- 基本的な生活習慣や家庭学習の習慣、授業における学習規律とともに、きまりを守って生活をしようとする意識や態度が身に付いている児童生徒が多い。
- 地域の行事やボランティア活動に参加する児童生徒が多い。
- 自分にはよいところがあると感じられる児童生徒が増えてきた。

<今後の指導について>

- ・上記の「瑞穂市の強み」は、市内各校が家庭や地域の協力を得ながら、児童生徒に確かな学力を身に付けさせようと、日々の授業の指導改善を図り、児童生徒のよさを認め、励ます指導を大切にしてきた成果だと考えられる。今後も、児童生徒一人ひとりを大切にした指導を継続していく。
- ・小中学校共に、これまで通り日々の授業を大切に、学習の課題に対する自分の考えを仲間と伝え合ったり、ノートにまとめたりするなどの言語活動を充実させる。また基礎的・基本的な学力とともに、資料等から読み取ったことを分析・解釈、判断し、それらをノートに記述したり、仲間と説明したりするなど、活用力も身に付けていくことができるようにする。
- ・漢字の読み書きや語句の意味、活用の仕方の理解など、語彙力に弱さがあることが課題である。漢字や語句を身に付ける学習の仕方を見直し、繰り返し練習することに加えて、辞書を引いたり、読書の中で漢字や語句を学んだり、覚えた漢字や語句を使って文章を書いたりするなど、家庭学習や補充的な学習、読書指導を工夫し、語彙力を高めるための指導改善に市全体で取り組む。